「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0452　◇◆◇　　17/10/04

【　10 月相場は値動き極端、期待される「2 ヵ月連続の大相場」　】

以前レポートした（9 月 6 日付）ように、「経験則では、大きな値幅を誇る 9 月相場」だったが、今年のドル/円の変動幅は 5.94 円となり、今年 2 番目の大変動を記録している。
さて、そんな 9 月相場を踏まえた足もと 10 月の相場予想だが、過去の経験則では「まったく動かない」か「非常に激しい動きを示す」か、両極端な値動きを示すことが少なくない－－という興味深い特徴が観測されている。個人的には、2 ヵ月連続の大相場を期待したいのだが果たして結果は如何に!?

◎10 月は為替より株式市場が要注意!?高原推移続くNYダウは気掛かりか

まず、1990 年以降昨年まで過去 27 年間の戦績を見てみると、16 勝 11 敗でややドル高有利となっている。ただ、勝率としては 6 割程度で、極端に偏っているわけではないようだ。
しかし、それとは別に 10 月相場には「まったく動かない」か「非常に激しい動きを示す」か、ふたつにひとつで両極端な値動きを示すことが少なくない、という別の結果が見て取れる。前述したように、9 月相場が 5.94 円となかなかの変動をたどったものの、今年のドル/円は年初来 107-118 円といった狭いレンジを形成しており、明確な方向性は乏しい。そうしたなか、年末に向けたレンジ放れのキッカケを掴む月になれば、と期待している向きは決して筆者だけではない気がしている。

ともかく、「10 月の大変動相場」の事例を調べてみると、大手ヘッジファンドLTCM破たんの余波を受け、変動相場制以降で一日当たり最大級の下げ幅（1 日約 12 円下落）を記録するなど、月間で 25 円以上も動いた 1998 年になるだろう。また 2008 年の 10 月も変動幅 15.67 円を記録し年間変動幅 1 位となるなど、ときたま狂ったような大相場・荒れ模様の変動をたどることもある。

また、そんな荒れ易い為替市場に呼応するように、10 月の株式市場も荒れる展開をたどることが多い。事実、米株市場には「悪魔の棲む 10 月」という言葉があることは良く知られているところだと思う。
分かりやすい事例を幾つか取り上げるだけでも、米株市場を震撼させた過去の 3 大暴落「ブラックサーズデー（29 年）」「ブラックマンデー（87 年）」「ブラックチューズデー（89 年）」はすべて 10 月の出来事だった。為替や株式などに限定したものではなく、10 月相場は金融市場全般にしっかりと注意を払う必要があるのかも知れない。とくに、今年は「すでにバブルの領域」などと言われつつ、NYダウが今月も 2、3 日と続伸し、過去最高値を更新するような状況だけに、今後月末に向けた「反動安」に注意した方がよい気もしないではない。

一方、相場から放れた視点、ニュースについてみてみると、筆者が「何故か大事件も起こりやすい」とレポートした 9 月に続き、10 月も日本を中心とした金融機関、なかでも生損保の破たんなどが目につく状況となっている。一例を挙げると、「独ハンブルグや米NYで金融恐慌（1907 年）」「山一證券の“とばし”発覚（93 年）」「京都共栄銀が解散発表（97 年）」「長銀国有化（98 年）」「千代田生命が更正特例法申請（00 年）」「大和生命破たん（08 年）」－－などとなる。

もちろん、それらのようなニュースは毎年確実に起こる、というものではない。
しかし、日本に限らず世界に目を向けてみると、米朝関係の悪化ならびに開戦への不安、安倍政権が続くのかどうか 22 日に予定されている日本の衆院選挙、独立するか否かで揉めているスペイン・カタルーニャ問題、党大会までは大人しいと予想されるが終了後の動きが注視されている中国情勢－－など、今年の 10 月は注目材料が目白押しの状況だ。敷設されている様々な「爆弾」の暴発を懸念しつつ、予断の許さないひと月となる可能性もある。（了）

▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright　(C)　fx-newsletter limited　company All Rights Reserved　◆◇◆